



そんな彼女は昨年結婚したばかりの新婚さんです。久しぶりに会う彼女は幸せオーラが全開で、それが嬉しくてウルっときてしまいました。主人も「雰囲気やわらかくなったね」と言っていたので、心の安定は表情や仕草にもあらわれるんだと実感しました。彼女は「感音性難聴」のため、人工内耳を埋め込んでいます。この人工内耳ですが、体外部は補聴器によく似ていて、女性なら髪をおろせば隠れて見えなくなりません。でも彼女は髪をアツ

コンサートに招待してくれたのは、以前務めていた特例子会社で障害者職業生活相談員として一緒に働いていたSさんです。彼女が私を知る障害者の中でも1・2を争うほどアクティブでまるでバイタリティーの塊のような人です。自分にも他人にも敵しいところがあり、同じ職場の知的障害の人たちからは「怒りん坊のSさん」と呼ばれることもありました。(T_T)

10月の連休に、友人が招待してくれた「ゴールドコンサート」を観に東京国際フォーラムへ行ってきました。このコンサートの障害のあるミュージシャンのコンサートで、出場者をはじめ主催・企画運営に関わる人も障害当事者が中心となっています。今回で12回目となり、全国的に新聞やニュースで特集されていました。

「ええ事言う！」倅大名言集

- ・「ママが言ってること、だいたいわかるんだよねえ。だから、ほぼ治ったって事だよ！」
→なるほど！これぞ究極のポジティブ(^_^)v
子どもに教えられることで勇氣100倍！
- ・「ママって40代なのにキレイだよね！50代になっても、それだけキレイならすごいよね！」
→8歳のサービストークをスポンジなみに吸収しておきました。(*/▽/*)
もしや、チャラ男の予兆???

これはまったくもって同感です。私も倅大とあちこち出かけますが、車椅子の優先スペースは付添1名が基本なので、せっかく一緒に出かけたのに倅大や主人と席が離れてしまうことも多く、天下のティズニランドさえ優先スペースの付添は1名でした。一緒に並んで楽しむことができれば思い出は大きく膨らむような気がします。こんな声が少しでも届き、よりよい環境が実現できたらうれしいですね。

この日のコンサートのパンフレットには彼女の記事が掲載されていました。『日本のコンサートでは、車椅子ユーザーには付添1名までと制限されていることが多く、家族が並んで観覧できるコンサートはめったにない。車椅子でも家族揃って観覧できるゴールドコンサートの社会に対する重要性を感じた』

プにして、耳のうしろの人工内耳を見せていました。これがとても可愛いヘアピンのようなデザインで、機能だけではなくお洒落も楽しんでいるところが「彼女らしい」と思いました。その日の気分によってカバーを付け替えているそうです。

「チームいえこ」メンバー紹介 ③

けあビジョン板橋 M野さん



☆オープニングメンバーにして「チームいえこ」最年長のヘルパーさんです！ヘルパー歴もかなり長く、現役でバリバリ働いている姿は「尊敬」の一言に尽きます。
お昼休憩で3時間ほど外出するときは、サンシャインホテルのロビーラウンジに行き、ときにはご主人と待ち合わせてランチタイムを楽しむという理想の熟年夫婦です。「生きることの大切さ」を教えてください。m(_)_m

ソシオケアサービス N澤さん



☆こちらもオープニングメンバー！「チームいえこ」の進化は介護経験が豊富なNさんのアイデアとアドバイスのお蔭と言っても過言ではなく、沖縄用ヘッドバンドも作ってくれました。
とにかく物知りで、どんな角度から切り込んでも、常に会話が成立します。月曜日担当なので外出の機会も多く、真冬のとしまえん、連休のスカイツリー、ボルダリング、前述のゴールドコンサートなど、どこへ行っても安心して楽しむことができます。!(^^)!

～旦那後記～

ハゲに関する名言といえば、やはりソフトバンク孫正義社長の「髪の毛が後退しているのではない。私が前進しているのだ！」が非常に有名ですが、ブラックマヨネーズ小杉氏の「禿げるはいつの恥、被るは一生の恥」という言葉も、潔くさわやかな覚悟を感じる一言です。先日床屋に行ったとき、人生を感じる名言に出会いました。床屋「上のほうの長さはどうしましょう？」客「それは前髪です...」 会社でのキャリアを重ねることで自らの役割が変わるように、かつて頭頂部担当の毛髪がいまは前髪としての機能も担っている。これは退化ではなく進化と呼ぶべきでしょう。

今月のお知らせ

- 月末に新しいヘルパーさんが外出デビュー！一緒に頑張りましょう。(^^)/
- 今年の結婚記念日、プレゼントはプラチナとピンクゴールドのフープピアスでした (#^_^#)

